

●第45回子ども・子育て会議での委員意見について

委員名	項目	意見の内容	回答
柳瀬委員	利用者支援事業 地域子育て支援拠点事業	利用者支援事業、地域子育て支援拠点事業について、今までになく日曜日の開催、父親向けや家族で参加できるものもできるようになり、これまでの意見をずいぶん取り入れてもらったなと思っています。今、父親が育休を取る人が急激に増えており、子どもがいる家庭とか周りの人とも触れ合う意味で、支援センターとかの役割は大事だと思うので、これからも発信していただきたいなと思います。	今年度は公立の子育て支援センターで年6回、土曜日に家族参加型イベントを開催します。また、10月には高田短期大学と共催で父親向けの家族参加型イベントの木工教室を開催します。引き続き、より多くの子育て世帯に情報が行き届くよう、利用者支援事業・地域子育て支援拠点事業の情報発信と参加機会の拡大に努めます。
大川委員	乳児等通園支援事業 (子ども誰でも通園制度)	誰でも通園制度のことで、根本的な問題としてはやっぱり人員不足で、そこに割ける人材がほぼいないというのが現状である。いろんな形で、その人材を私たちの方にも回してもらえよう調整の施策をしていただかないと、なかなか厳しいなという現状です。	自治体として、民間施設へ保育人材を斡旋するような施策はできませんが、保育現場の負担軽減等、別のアプローチで課題解決に向けて進めています。その整理と現状の津市の保育士確保施策について第46回子ども・子育て会議でご説明をさせていただきます。
富田委員	乳児等通園支援事業 (子ども誰でも通園制度)	子ども誰でも通園制度は、委員の皆様の関心が強いと思われるので、試行的実施により得られた、津市内のニーズと供給体制の見通しについても、また報告を頂きたい。また、周辺自治体や津市と同様の規模の自治体の取り組みについても、情報があればこの会議で取り上げて頂きたい。	子ども誰でも通園制度の試行的実施により得られたデータや近況情報について、子ども・子育て会議でも共有をしていきます。9月22日時点の登録者について、44世帯、47名が登録されています。また、各事業者へ令和8年4月1日から事業実施についての意向調査を行っており、10月初旬を目途に集計が完了する計画で進めております。
渡邊委員	保育人材の確保	人材が確保できていて待機児童がない他の自治体があれば、そこに良い事例があると思う。給料を上げるとか、休みが取れるようにすごい人を引っ張ってくるとか、そういう事例を基に運営者側の方と津市とがうまくどう風にしたらいかなって意見を交換して、バラバラじゃなく喧嘩じゃなくて、みんなうまく、丸くなれたらいいなと思います。	保育人材不足の問題については、様々な課題から生じているものと考えており、その整理と現状の津市の保育士確保施策について第46回子ども・子育て会議でご説明をさせていただきます。 現状の津市の施策についても、他市の施策・事例について情報収集をしながら実施しているものですが、引き続き情報収集をしながら、津市の保育士確保施策をより良いものになるよう努めたいと思います。